

一 般 質 問



向井孝一 議員

問 町民とともにあゆむ病院をめざす為に電子カルテの導入を

答 医師を中心として、当町の病院内における医療改善に向けた取り組みを進めております。

向井議員 病院は、地域医療の中心として住民の命と健康を守る大きな役割を果たしています。しかし今、地方自治体が抱える多くの病院が、経営赤字や医師、看護師不足など深刻な課題に迫られています。そんな中、平成29年第1回定例会において新公立病院改革プランの提案をなされましたが、計画、達成には厳しい状況にあります。6月9日に行われた常任委員会の中で、国保病

院の運営方針について、院長より報告がありました。その中で、注目すべきはこの4月より総合診療を始めた事です。そのことにより待ち時間が短縮出来た事は患者の負担軽減にも繋がっています。訪問診療の拡大や在宅医療の確保を考える時に、町民とともにあゆむ病院をめざす為にも、電子カルテ導入は、患者にとっても病院にとっても緊急を要する事案として提案申し上げます。町長の考え方を伺います。

町長

既に、電子カルテの必要性については、この間、勤務を頂いている医師とその必要性について話をさせて頂いております。導入に向けた資料収集や業者等からの情報収集などの取り組みを進めて参りました。電子カルテシステムは、患者の情報や診療経過の情報を電子化して、データベースに記録することで、診療データを一括保存し管理する仕組みとなります。今でこそ、電子カルテの普及を、といわれていますが、これまで日本の病院において

は、電子カルテシステムよりもオーダーリングシステムの方が普及をさせて頂いております。オーダーリングシステムとは、検査などの医師の指示をパソコンに入力し、そのデータが関連部署に届くことにより、内容を知らせる事が出来るという仕組みのものです。今金町国保病院での電子カルテは、リハビリ管理、検査管理、放射線科管理などのシステム機能を含めた仕組みにしていかなければならないと考えます。

電子カルテについては、当面は病院内でのデータのやり取りからとなりますが、ゆくゆくは地域包括ケアシステムの推進における医療・保健・福祉・介護事業との情報共有が必要な時代となることは明らかであり、その仕組みの基本になるとの考えを示して来ております。しかし、2次医療圏、3次医療圏病院との連動を図るためには、それぞれの病院ではメーカーを含めてシステムが異なり、データの相互連携を行うには課題があることから、時間を要するところです。まずは、今金町国保病院内

における医療改善に向けたシステムを構築して参りたく、医師を中心に院内会議での検討を踏まえ、導入に向けた取り組みについて既に指示をしているところです。

向井議員

当町においても高齢化や人口減少も見られる中で、地域医療を考えた時に、電子カルテは必要不可欠だと考えます。既に指示をしているという事は、検討以上の事だと思えます。具現化すべき時期が明確になるのはいつ頃ですか。

町長

具現化すべき時期が明確になるのはいつ頃になるのかは定かではありませんが、課題が幾つかあります。1つ目は、電子カルテが基本のベースとなり、そこに当町の病院に必要なシステムを見定めて組み入れる事。2つ目は、導入をする事により、現場で働く医師や事務職、病院を利用される患者にとつてどのような効果が期待出来るのかという事。3つ目は、導入経費やシステム管理について。それらの

向井議員

今年度の3月末で過疎債が廃止になるような情報を得ましたが、財源確保のためにも、その時期を考慮した検討を進めて頂きたいと思います。

町長

財源については、過疎債だけではなく病院債なども含めて、財務部局の方で方針を定めて、財源確保の取り組みをして参ります。

向井議員

町民の期待に沿える病院と云うのは、医療スタッフと患者の信頼関係が大事だと思いますので、今後も職員の見守りに努めて頂きたいと思います。

町長

信頼される病院作りという事では、職員の指導を行う事や、患者優先の体制を取って参りますので、よろしくお願いたします。